

# プレイヤーの皆様へ

2008年4月26日作成、6月10日改訂

J C B L ルール委員会

ブリッジの規則が2008年4月26日より一部変更され、その詳細についてはJ C B L 会報に掲載されていますが、その中で**プレイヤーの皆様**に**テーブル上で直接、関係ありそうなもの**の一部をご紹介します。これ以外にも変更はありますが、ディレクターがその都度説明・裁定してくれますので省略します。

- 1) 「各プレイヤーはプレイ終了後、13枚のカードを**シャフルしてボードに戻すものとする**ことが正しい手順として規則に記述されました。  
次のテーブルにそのボードのカードのプレイ順などが不当な情報として伝わらないようにするためですが、これは従来からブリッジ上のマナーとして実際には行われていたことです。(第7条C)
- 2) ダミーを含めプレイヤーは**誰でも他のプレイヤーの違反行為を防ごうとすることが出来る**ようになりました。(第9条A3)  
ただし、ダミーはリボークの可能性をディフェンダーに聞くことができないなど、一部制限があります。(第42条、第43条)
- 3) コールを間違えた時に**早まって訂正する行動をとると大変不利になる**ことがあります。意図しないコール(自分の考えているものと異なるコール)をした場合、パートナーがコールする前なら従来どおり訂正可能です(第25条A)が、**不十分なビッドを早まって言い換え**てしまうと、(左手の相手が不十分なビッドを受入れなければ)この言い換えが自動的に成立してしまい、その結果パートナーが常にパスしなければならないこともありますので特にご注意下さい。慌てず**ディレクターを呼び説明を受けてから対応するよう**にしましょう。(第27条C)  
同様に、意図的なコールの言い直しの場合も慌てて言い直しをしても良いことは何もありません。(第25条B)
- 4) パスが3つ続いてオークションが終了した後からオープニングリードが表向きになるまでの「説明期間」では、**ディクレアラ側**に**限り自分のシステムカードを参照することが出来る**ようになりました。  
もし、ディクレアラ側は自分達の説明に間違いがありそうなら、この時点で取決め事項を確認して訂正する義務があります。(第40条B2、第20条F5)
- 5) リボークの可能性について**ディフェンダー間で尋ねることが出来る**ようになりましたが、不当な情報を生み出すおそれがありますのでご注意ください。(第61条B3)
- 6) 「リボークの指摘があっても、終了したトリックの検査をしてよいことにはならない」ことが、規則に明記されました。さらに自分以外のカードに触れないようにしてください。(第62条C3、第66条C/D)
- 7) カードの勝ち負けの向きの間違いについて、ダミーを含む全員が指摘することが出来るようになりました。しかし、次のトリックへのリードが行われるとディクレアラ以外は遡っての指摘は出来なくなります。(第65条B3)

以上